

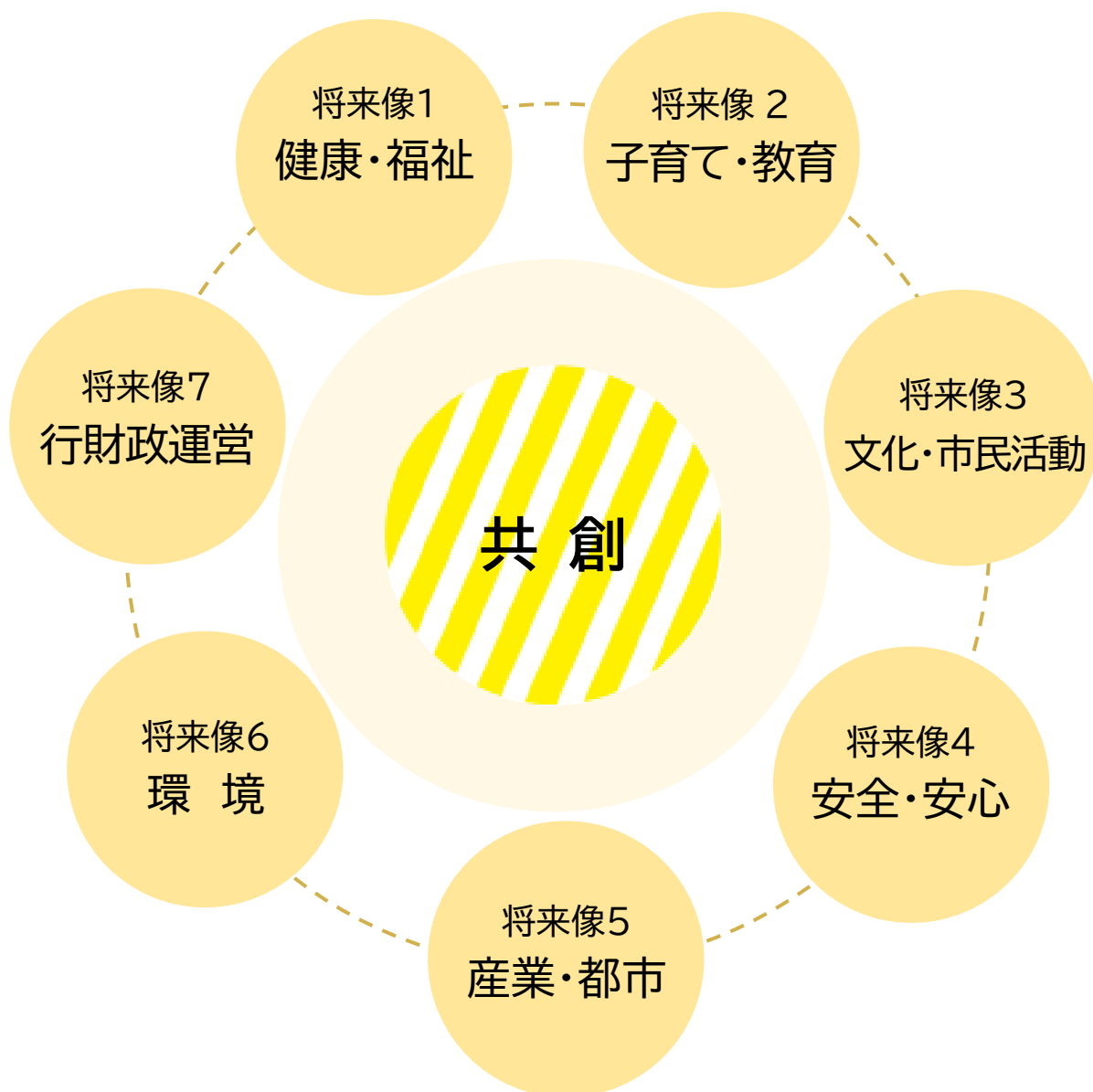
基本構想

まちの将来像

計画策定にあたって整理した魅力やこれまでのまちづくりを踏まえ、共創のまちづくりを進め、みんなが多彩な幸せを実感できる持続可能なまちをめざすため、次に掲げる7つの分野において茨木市がめざす将来像を設定することとします。

また、各分野における将来像は一つではなく、複数設定しており、多様な価値観のもと、多様な主体が活躍できるまちづくりをめざします。

なお、全ての将来像がその分野の中で完結するのではなく、全ての将来像が有機的につながり、横断的・複合的な視点を持つことで、各将来像が示すまちの姿をめざすこととします。



まちの将来像

(1) 健康・福祉

・つながりを大切に、ともに支え合えるまち

地域交流を促進(市民同士のつながりを強化)し、相談体制を整備(市民、関係団体・機関、行政のつながりを強化)することで、ともに支え合えるまちをめざします。

・いきいきと日常を過ごせるまち

年齢や属性等に関わらず、誰もがやりたいことができるよう、社会参加に壁を感じている人(=自分のやりたいことができていない人)も、自分が社会から取り残されているのではなく、社会の一員であるという感覚を持つことができ、いきいきと日常を過ごすことができるまちをめざします。

・いつまでもすこやかに安心して暮らせるまち

市民一人ひとりが健康への関心と理解を深め、健康づくりに主体的に取り組むことにより、すこやかで心豊かに暮らせるまちをめざすとともに、地域医療の充実、介護者負担の軽減、社会保障の適正な運用と担い手の確保等により、もしものときでも安心して暮らせるまちをめざします。

市民の声

- ・人々が助け合い、声を掛け合えるような、つながりを大切にするまち、笑顔があふれるようなまちで暮らしたい(50代女性)
- ・一人暮らしになっても買い物や病院などで不便と感じないまちで暮らしたい(60代女性)
- ・高齢者や障害者も社会参加できるまちで暮らしたい(40代女性)
- ・無職、孤立者、貧困者の居場所がないことが不安・不満(50代男性)
- ・病気になっても安心して生活できるまちで暮らしたい(70代男性)
- ・病気になっても、こどもに負担をかけずに、行政のサポートが受けられるまちで暮らしたい、自分の介護のために、こどもの人生設計を変更させたくない(60代女性)

【市民アンケート・市民ワークショップより】

まちの将来像

(2) 子育て・教育

・こども・保護者の「うれしい」を育むまち

全てのこどもの個性を尊重し、全ての子育て家庭に切れ目なく支援を行うことで、こどもも保護者もたくさんの「うれしい」を育めるまちをめざします。

・地域ぐるみでこどもの成長を感じるまち

地域全体で子育てを支援し、保護者を孤立させることなく、子育てでつながる地域社会となることで、こどもが成長し、いきいきと地域で暮らすことができるまちをめざします。

・こどもの「好き！」を伸ばせるまち

こどもたちの個性、障害の有無、育つ家庭環境などに関わらず、一人ひとりが安心できる居場所があり、学びの中でこども一人ひとりの「好き！」を伸ばせる体験をとおして、全てのこどもが自分らしく輝き、喜びとともに成長していくことができるまちをめざします。

市民の声

- ・保育イベント、親子教室などは平日午前中ばかりで、働く親は参加できない(30代女性)
- ・子育て中の親が孤独にならないようにしてほしい(30代男性)
- ・周りとの協力しながら子育てできるまち(10代女性)
- ・こども達の成長を地域で見守り支えるまち。校区の垣根などを越えて、こども達がつながり、学べる環境であってほしい(30代女性)
- ・多様性が尊重されるまち。特にこどもの教育については個性や多様性が尊重されるものであってほしい(50代女性)
- ・こども達がもっと自由に楽しく生活できる学校などの為に、個性や個人を尊重する為の教育を徹底してほしい(30代男性)

【市民アンケート・市民ワークショップより】

まちの将来像

(3) 文化・市民活動

・いくつになっても学べるまち

勉強だけに限らず、文化芸術等の趣味活動や、興味を持った分野の課題について、何歳であっても誰もが自ら知り、学ぶことができ、その学びにより豊かな人生を送ることができるまちをめざします。

・プレーヤーもサポーターもスポーツで幸せを感じられるまち

運動やスポーツを楽しめる環境が充実し、プレーするだけでなく、観戦を楽しみスポーツを身近に感じるなど、様々な関わり方により、スポーツを通じて幸せで健康に暮らすことができるまちをめざします。

・継続的に文化に触れ、創り、育むまち

日常生活の中で継続的に文化芸術に触れられる環境づくりを行い、新しい価値を創造することができるとともに、これまで継承されてきた歴史・文化資源にも触れ、受け継ぐことで心豊かな生活ができるまちをめざします。

・お互いを認め合い、つながり、活動できるまち

地域の多様な主体が出会い活動する場を創出し、地域コミュニティが醸成される環境を育むとともに、年齢・性別・国籍・職業などの社会的属性や価値観や生き方など様々な部分で、お互いの人権を尊重し、違いを理解し認め合うことで、様々な背景を持つ人同士がつながり、活動できるまちをめざします。

市民の声

- ・学習する場所がもっとほしい(30代女性)
- ・高齢になっても学べるシニアカレッジのような場が少ない(70代女性)
- ・みんなでスポーツ観戦できる施設が少ない(50代男性)
- ・いろいろな食、文化、芸術、運動に触れられるまち(30代男性)
- ・スポーツを楽しんだり、芸術に触れられたりする場所が少ない(30代女性)
- ・多様な人々へ自ずと笑顔の広がるまちであってほしい(70代女性)

【市民アンケート・市民ワークショップより】

まちの将来像

(4) 安全・安心

・災害に強い都市基盤を持つまち

安威川ダム・大型物流施設等の地域資源を有効に活用した防災対策が進むとともに、防災拠点の機能充実や広域連携により、災害に強く安心して暮らすことができるまちをめざします。

・安心して上下水道が利用できるまち

地震対策、老朽化対策、浸水対策等を進めることで、自然災害等による被害を最小限にとどめ、被災した場合であっても機能が継続され、安心して上下水道が利用できるまちをめざします。

・地域のつながりが強く、防災・防犯対策が充実しているまち

多様な災害に即応できる消防・救急体制が充実しているとともに、大学や事業者等との連携や、地域のつながりにより、防災・防犯対策、消費者教育が進んでいるまちをめざします。

市民の声

- ・大雨・台風時に川の氾濫が不安(40代男性)
- ・地震などの災害時にトイレが使えるか不安(60代女性)
- ・地域のつながりが希薄で、災害発生時が心配(70代男性)
- ・上下水道管の老朽化が心配 (40代男性)
- ・災害が起こった時に、素早い対応ができるまち(50代女性)
- ・防犯灯や防犯カメラが少ないと感じるので増やしてほしい(40代女性)

【市民アンケート・市民ワークショップより】

まちの将来像

(5) 産業・都市

・個性あふれる茨木らしさで活気あふれるまち

交通利便性等の強みをいかした産業の育成、地元企業や大学との連携によるイノベーションの創出、創業促進、農林業等による地産地消の取組や担い手の育成、市内産業の認知度向上などにより産業が発展するとともに、茨木にある個性をいかした観光の振興を実現し、活気のあるまちをめざします。

・山とまちが調和した、魅力的で過ごしやすく暮らしやすいまち

茨木の特徴である「山」と「まち」の調和がとれた土地利用誘導を図りながら、北部地域や中心市街地の魅力をいかした都市整備等、地域特性に応じた都市づくりを進めるとともに、緑豊かで良好な景観や住環境を形成することで、人々が思い思いの過ごし方ができ、魅力的で暮らしやすいまちをめざします。

・安心・安全・快適に移動できるまち

誰もが安心して安全にまちなかを移動でき、あらゆる交通手段を利用し、利便性が高く円滑な交通環境を実現することで、気軽に外へ出て活動ができるまちをめざします。

市民の声

- ・企業誘致により財政豊かなまち。主要駅近辺が発達し活気のあるまち(40代女性)
- ・経済・文化・学術・観光のバランスが取れた活気のあふれるまち(50代男性)
- ・人と人との交流が望んだ時にできるまち(10代女性)
- ・市内外の人から魅力的に感じるまち(10代女性)
- ・自転車、自動車などの交通マナーが悪く、将来こどもが外を歩く時心配なので歩行者に優しいまち(30代男性)
- ・環境は良いが高齢のため交通が不便に感じる。住んでいる所が田舎で町の中心部に行くのが大変(70歳代男性)

【市民アンケート・市民ワークショップより】

まちの将来像

(6) 環境

- ・一人ひとりの小さな行動が支える、環境に優しいきれいなまち

まちの美化や脱炭素化の推進、環境への負荷を軽減する資源循環等、様々な観点での「きれいなまち」を実現するために、一人ひとりが実際に行動に移しているまちをめざします。

- ・自然を身近に感じて暮らせるまち

北摂山系の豊かな自然が守られ、まちなかに身近な緑があふれることで、多様な動植物と触れあうことができ、癒しや健康の増進などにつながり、快適な暮らしができるまちをめざします。

- ・環境について学び、みんなでつくる環境のまち

地球規模の環境問題から茨木での環境取組についても学ぶことで、茨木市における理想の環境の姿を考えるなど、環境教育が充実し、一人ひとりの意識が高まり、行動に結びついているまちをめざします。

市民の声

- ・環境に優しくて綺麗なまち(10代女性)
- ・自然な場所(川など)でこどもと遊べる場所が少ない(40代男性)
- ・街中に溶け込むような豊かな緑を感じ全ての世代が癒される公園、緑地、自然が少ない(50代女性)
- ・こどもを中心に興味を持てる環境フェアが増えてほしい(40代男性)
- ・環境教育が不徹底に感じる(70代男性)
- ・まち全体を通して捨てられている空き缶やゴミが多く、住んでいて癒されない(40代女性)

【市民アンケート・市民ワークショップより】

まちの将来像

(7) 行財政運営

・デジタルを活用して豊かに暮らせるまち

デジタル技術により、社会・経済・生活等のあらゆる分野をより良い方向に進めるとともに、全ての世代のかたがデジタル化の恩恵を受け、豊かに暮らすことができるまちをめざします。

・まちの情報を受け取り、発信したくなるまち

市民のかたが市政や地域に関する情報を受け取り、まちへの信頼・愛着を高めることで、自らもまちの情報を発信するなど「関わり」を増やしたくなるようなまちをめざします。

・安定した行政サービスが提供される、持続可能なまち

人口減少社会の到来などにより財政状況が厳しい中においても、効率的・効果的な行財政運営により健全な財政を維持することで、安定した行政サービスが持続的に提供されるまちをめざします。

市民の声

- ・デジタル化についていけない人たちが、取り残されないまちになってほしい(70代女性)
- ・ICTを活用した教育に熱心なまちになってほしい(30代女性)
- ・行政手続きが便利で簡単になってほしい(30代女性)
- ・他市と比べて茨木市は特徴、個性が見えない(50代男性)
- ・他市民から羨ましいと思われる茨木市になってほしい(50代男性)
- ・他の自治体や国全体より行政サービスが充実しているまち(60代男性)

【市民アンケート・市民ワークショップより】